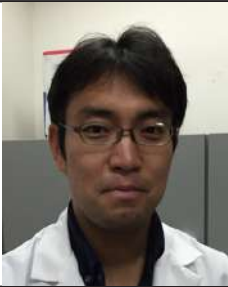



所属・職位	医学部医学科呼吸器・感染症内科学講座・准教授	
氏名	小宮 幸作 (Komiya Kosaku)	
取得学位	博士 (医学)、大分大学、2013年3月 修士 (公衆衛生)、聖路加国際大学、2019年3月	
SDGs目標	  	

研究分野	呼吸器内科学、感染症学
研究キーワード	肺炎、結核、非結核性抗酸菌症、慢性気道炎症、臨床研修
研究内容	<p>●市中肺炎における予後予測因子と治療戦略に関する研究</p> <p>肺炎患者における予後因子を、肺炎発症の機序の視点から解析している。日本呼吸器学会の成人肺炎診療ガイドラインに携わり、各種システマティック・レビューも行っている。また、誤嚥性肺炎として世界で初めての英文教科書を編者として出版した。</p> <p>Shinji Teramoto and Kosaku Komiya, editors. Aspiration Pneumonia; The Current Clinical Giant for Respiratory Physicians, Shinji Teramoto and Kosaku Komiya Eds., Springer Nature Singapore Pte Ltd., 17th June 2020</p> <p>Komiya K, Rubin BK, Kadota JI, Mukae H, Akaba T, Moro H, Aoki N, Tsukada H, Noguchi S, Shime N, Takahashi O, Kohno S. Prognostic implications of aspiration pneumonia in patients with community acquired pneumonia: A systematic review with meta-analysis. Sci Rep. 2016 Dec 7;6:38097.</p> <p>●結核・非結核性抗酸菌症に関する臨床研究</p> <p>2017年より大分県委託事業である結核医療体制強化事業を担当し、公衆衛生修士としての視点から日本における結核診療の課題に関連する研究を多く行っている。日本結核・非結核性抗酸菌症学会が出版している結核診療ガイドの作成委員を努めた。</p> <p>Shuto H, Komiya K, Goto A, Kan T, Honjo K, Uchida S, Takikawa S, Yoshimatsu T, Yamasue M, Hiramatsu K, Kadota JI. Efficacy and safety of fluoroquinolone-containing regimens in treating pulmonary Mycobacterium avium complex disease: A propensity score analysis. PLoS One. 2020 Jul 9;15(7):e0235797.</p> <p>●気道炎症に関する基礎的研究</p> <p>慢性気道炎症における病態の解明、マクロライド系抗菌薬、抗コリン薬などの薬剤の影響について研究を行っている。</p> <p>Davis MD, Suzaki I, Kawano S, Komiya K, Cai Q, Oh Y, Rubin BK. Tissue Factor Facilitates Wound Healing in Human Airway Epithelial Cells. Chest. 2019 Mar;155(3):534-539.</p> <p>Komiya K, Ohta S, Arima K, Ogawa M, Suzuki S, Mitamura Y, Nunomura S, Nanri Y, Yoshihara T, Kawaguchi A, Kadota JI, Rubin BK, Izuhara K. Clarithromycin attenuates IL-13-induced periostin production in human lung fibroblasts. Respir Res. 2017 Feb 20;18(1):37.</p>
研究業績・アピールポイント	肺炎に関連する臨床研究および気道炎症における基礎研究において、米国胸部疾患学会から2回の受賞歴がある。国内各学会からもそれぞれの分野で受賞している。日本呼吸器学会においては、成人肺炎診療ガイドライン作成委員およびCOVID-19診療expert opinionワーキング委員を担当し、日本感染症学会では、臨床研究促進委員会委員、JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員 (呼吸器感染症領域)、臨床研究促進委員会委員、気道感染症抗菌薬適正使用委員会委員、全国レジオネラ症ワーキンググループ委員、DPCを用いた臨床研究に関するアドホック委員会委員等を担当している。研究業績を元に学会活動では中心的役割を果たしており、論文のみならず多くの書籍等も執筆している。